



2026年5月7日

各位

会社名 クリングルファーマ株式会社
住所 大阪市北区中之島四丁目3番51号
Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター10階
代表者名 代表取締役社長 安達喜一
(コード番号: 4884 東証グロース)
問い合わせ先 取締役 経営管理部長 村上浩一
TEL. 06-7653-6728

米国胸部学会主催の ATS International Conference における HGF の特発性肺線維症への応用研究発表に関するお知らせ

2026年5月15日から5月20日まで、米国フロリダ州オーランドで開催される American Thoracic Society (ATS: 米国胸部学会) が主催する「ATS International Conference」において、以下の通り、HGF の特発性肺線維症への応用研究に関する演題が発表されます。

(学会公式サイト: <https://site.thoracic.org/conference>)

演題: Hepatocyte Growth Factor Suppresses Pulmonary Fibrosis by Promoting Type II Alveolar Epithelial Cell Proliferation

演者: 武藤篤 (金沢大学附属病院呼吸器内科 医員)

発表日時: 2026年5月19日(火) 11:30~13:15 (現地日時)、ポスター発表

当社は、2024年6月18日付「HGF (肝細胞増殖因子) の特発性肺線維症への応用研究に関する金沢大学との共同研究開始のお知らせ」のとおり、金沢大学医薬保健研究域医学系呼吸器内科学/附属病院呼吸器内科の矢野聖二教授及び同大学院医薬保健学総合研究科/附属病院呼吸器内科の渡辺知志特任准教授とともに、HGF タンパク質を用いた特発性肺線維症の治療薬開発を目指し、共同研究を推進しています。本共同研究では、特発性肺線維症モデル動物を用いた HGF タンパク質の有効性評価に加え、分子レベルでの作用機序の解析を進めています。

本学会は、呼吸器・胸部疾患領域における国際的に最も権威ある医学学会の一つです。毎年、基礎研究から臨床応用まで幅広いトピックが取り上げられ、世界的な治療動向やガイドライン形成にも大きな影響を与えています。今回の発表により、国際的な研究者・臨床医からの知見や議論を踏まえ、特発性肺線維症に対する HGF の位置づけをより明確化し、今後の研究展開や適応拡大に活用してまいります。

以上

特発性肺線維症について

特発性肺線維症は、原因不明の間質性肺炎の一種で、肺の不可逆的な線維化により乾いた咳や息切れなどの症状が出るようになり、ついには呼吸不全に至る病気です。特発性肺線維症は間質性肺炎の中でも特に予後が悪く、診断後の生存期間は3~5年とされています。

特発性肺線維症の年間発症率は、アジアで人口 10 万人当たり約 4 人、欧州では約 5 人、北米では約 9 人、有病率はアジアと欧州で約 15 人/10 万人、北米で 20~30 人/10 万人程度と推定されています*。地域差はあるものの、国際的に希少疾患として位置づけられています。

既存の医薬品としては、ピレスパ（一般名：ピルフェニドン）とオフエブ（一般名：ニンテダニブエタンズルホン酸塩）の 2 剤が承認されていますが、いずれも病勢進行の抑制にとどまり、根治的治療には至っていません。そのため、本疾患は予後不良かつ治療選択肢が限られた希少疾患として、世界的に新たな治療法の確立が強く求められている呼吸器疾患です。

*Golchin et al. Incidence and prevalence of idiopathic pulmonary fibrosis: a systematic literature review and meta-analysis. BMC Pulmonary Medicine (2025) 25:378.

HGF (Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子) について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之教授及び同医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象に HGF タンパク質医薬品の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、HGF タンパク質医薬品のレイトステージの開発パイプラインでは、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相臨床試験を終了し、さらに追加臨床試験に向けた準備を進めています。また、声帯癬痕を対象とする開発は第Ⅲ相臨床試験を実施中です。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。